

新聞に親しみを持ち、興味・関心を持って主体的に活用していく子に育てるためのNIE活動はどうあったらよいか。

長野県茅野市玉川小学校教諭（代表） 平林 正也

1. 実践の概要

(1) テーマ設定の理由

テレビ・ラジオ・新聞・コンピュータなどのメディアから発信される情報。その情報が過多ともいわれる今日。私たちは居ながらにして情報を手に入れることができる幸せを得た反面、その情報を取捨選択していかに関活用していくかと言うことが重要な課題となっている。子ども達にも、あふれる情報の中から本当に必要な、しかも正確な情報をキャッチする「情報選択能力」を育てたいと思う。

数ある情報源の中では、一番子ども達にとって身近であるのはテレビであり、次いで新聞であった。新聞の利用の様子は「読む」と言うよりも「目を通す」程度であり、目を通す紙面は「テレビ欄」「4コマ漫画」「スポーツ」が多かった。また、ちょうど御柱の年であり、地方紙や地方欄で掲載される御柱関連の記事には、自分達の地区のことが取り上げられたこともあったりして興味はあったようだった。そして、社会面や総合面には、全くと言っていいくらい関わりがなかった。

しかし、新聞には記録保存が容易であったり、読み比べることができたり、テレビでは見逃してしまうことも確認ができるなどの良さがある。

そこでまず、新聞に触れる・親しみを持つための活動から始め、新聞に興味・関心を持って主体的に関活用していく児童に育つことを願い、本テーマを設定した。

(2) 研究の目標

- ①新聞に触れる・新聞に親しむ子ども。
- ②新聞を活用する子ども。

(3) 研究の仮説

- ①新聞との関わりりの場面や活動を増やしていくことによって、新聞が持つ情報への興味や関心が高まってくるだろう。
- ②新聞記事を題材にした体験や調査などの実践を行うことによって、新聞の持つ特性や特徴をつかんで、新聞を生活や学習に活用するようになるだろう。

(4) 研究の内容

- ①新聞に触れ、親しみを持たせる工夫
 - ・新聞切り抜き活動
 - ・スクラップブック、ファイルを持つ
 - ・NIEコーナーの設置
 - ・新聞閲覧コーナーの設置
 - ・ニュースタイムでの発表
- ②新聞の活用を目指した学習の設定
 - ・新聞記事や写真を、教科学習での教材や資料として活用する。
 - ・学習のまとめでの新聞づくり。
 - ・新聞記事を、学級の中核活動に取り入れていく。

2. 新聞の配置と整理の方法

(1) 新聞の配置

- ①最初の1ヶ月は、購読できる8社すべての新聞を1部ずつ購入し、5学年3クラスに2部ずつ、4学年に2部を配布した。次の月からは、4社の新聞を1部ずつ購入し、5学年3クラスに1部ずつ、4学年に1部を配布した。なお、4社は隔月で変わり、配布するクラスもローテーションして、3月までにはどの学年クラスも新聞8紙がすべて回ってくるようにした。
- ②各クラスでは、新聞閲覧コーナーを作り、誰でも自由に読むことができるようにした。

(2) 新聞の整理方法

- ①そのままストックしていったクラス。
- ②クラスで決めたテーマに関する記事のみを切り抜き、ストックしていったクラス。

3. 実践の内容

(1) 新聞に触れ、親しみを持つための工夫

①学級活動で

・スクラップ帳、スクラップファイル

個人用に持たせた。1週間の中で一番印象に残った記事を切り抜いたり、テーマを決めて記事を切り抜いたりした。記事の選び方については、各クラスや個人に任せることとした。また、ただ切り抜いて貼るだけではなく、内容の要約をしたり、感想を書いたり、イラストや飾り枠をつけたりして、その子なりの工夫が見られるスクラップ帳・ファイルが作られるようになった。

また、発表の機会も与え、クラスのNIEコーナーに展示したり(右写真)、スピーチをしたりして、個人の取り組みを伝える工夫もした。

・朝の活動でのスピーチ(新聞記事からの発表)

朝の会の時間を利用して日直がスピーチを行った。1面トップの記事を中心として記事を選択し、記事を読み、自分の感想や意見を発表した。

・分野別での新聞記事から切り抜き活動

新聞の整理方法を話し合っていく中で、生まれた活動である。最初にテーマをいくつか決めて、日々の新聞記事の中から探しだし、ストックボックスに整理しておけば、あとで使いやすいだろうということから始めた。

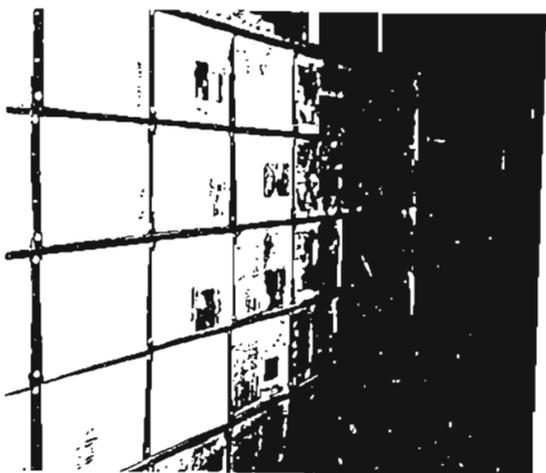
・新聞を利用したゲームやクイズを楽しむ。

数字クイズは、見出しや記事の中にあつた数字を問題とし、その数字の持つ意味を当てさせるといったもの。文字探しゲームは、新聞の文字を切り抜いて、問題文を完成させるといったゲーム。人物あてゲームは、写真からその人が誰か当てるといったもの。新聞で遊ぶことを通して、親しみを持とうという取り組み。

②学校掲示で

・学校NIEコーナーの設置

児童昇降口を入ったところに掲示板を設置した。そこには、玉川小学校に関係する記事を切り抜いて張った(職員、記録係の活動)。また、児童会の広報委員会が新聞の切り抜きを使って掲示物を作る活動も始めた。



(2) 新聞の活用を目指した学習活動

実践例「学級活動（総合的な活動） 5 学年」

① 単元名 環境問題にトライ

② 単元設定の理由

環境問題について様々な角度から関心を持っている子ども達である。そんな子ども達が、新聞の記事を読むことを通して、環境問題の実態をつかんだり、環境問題の克服・改善に取り組んでいる人たちの姿を発見したりする事から、自分でも環境問題に取り組んでみようとする態度が育っていくことを願い、本単元を設定した。

③ 単元目標

- ・ 自然と自分との関わり合いを見つめ、環境問題を身近な問題としてとらえ、自然環境を大切にする。(道徳)
- ・ 公害などの環境問題について、自分なりにとらえるために必要に応じた情報源をつかって、意欲的に情報を収集することができる。(社会)
- ・ 収集した情報を効果的に構成し、文章にまとめる。(国語)
- ・ 環境問題についての情報収集活動や調査活動、体験から得た活動を仲間と交換し合うことで、自分の考えを深める。(学級活動)
- ・ 新聞記事の中から、身近な環境問題についての記事をスクラップブックにまとめる。そこから得た情報を元に、自分の意見を盛り込んだ新聞にまとめることができる。(NIE)

④ 単元の流れ

国語「1秒が1年をこわす」の学習のまとめとして、環境問題を扱った新聞の記事や広告を探し、切り抜き、要約と感想を加え、ポスターセッションで内容を発表しあった。子ども達に環境問題への関心が膨らんできた。

諏訪湖や流入する河川での、水環境を守ったり、改善していこうとする取り組みがスクラップされてきたので、学級活動の時間に発表の機会を持った。発表された記事の一つに「廃油石鹼づくり」があった。

「つくってみたい」「話を聞いてみたい」と子ども達が身を乗り出してきて、それを受けて新聞記事に取り上げられていた方をご存じだという保護者の方の紹介があったりして、方々にあたった結果、JA 諏訪みどり玉川支所にお勤めで普及活動をしていらっしゃる田中さんを講師としてお迎えし、廃油石鹼教室を開いた。

廃油石鹼と合成洗剤とは違うということを知った子ども達に、使い比べてみる体験活動を組んでみた。実証授業は、新聞紙面にあった「諏訪湖にやさしい廃油石鹼」といわれる意味について、合成洗剤との比較を通して気づく場面を行った。そして、個々が継続して廃油石鹼を使ってみて、新聞を作ってまとめた。

⑤ 授業の展開

	学習活動	支援・願い	資料
始め	1. 廃油石鹼と合成洗剤とを使い比べた結果を発表する。	○児童による司会。教師が板書していく。	
なか	2. どちらをこれから使っていきたいか自分の考えを発表する。	○理由とともに、情報源を明らかにし発表させたい	スクラップブック
か	3. 実験をして確かめてみよう。 ・濁り度	○廃油石鹼の方が濁りが少なく環境に良さそうなことに気づかせたい。	石鹼水 合成洗剤水

な か	・ 廃油を水に流したらどうなる。	○新聞記事「流してしまった廃油を元の水のようにきれいにするには、水がどれだけ必要か」を、この場面で使ってほしい。	廃油・水 スクラップ ブック
お わ り	5. 本時のまとめ	○廃油石鹸の良さを、環境への配慮の点から具体的に書いてほしい。	

④ 授業での子どもの姿

「廃油石鹸は諏訪湖を汚さない」ことを新聞から見つける場面で

教師：もし、廃油を石鹸にしなかったり、適切に処分しないで、台所から流したらどうなるのかなあ。スクラップの中には、そんな記事は出てないかなあ。

(児童、記事を探し出す。「あった。あった。」の声)

NH児：1月20日の信毎で、今年度最後のシャボン玉教室を・・・油500mlに対してお風呂の水330杯が必要になる・・・。」って書いてあります

教師：みなさんの作った風呂桶だね。(児童：そのためにこの前作ったのか。)

ここにある廃油に対して、お風呂の水330杯うめないと魚が住めない。

例えば、この水槽だったらスポイト一滴の水で魚は苦しいだろう。[油を落とす]油の膜がほら。

児童：「見えない見えない。」「見たい見たい。」「本当だ。見えた見えた。」

新聞から記事を見つめる場面では、すぐに見つけられた児童と、なかなか見つけられなかった児童がいた。新聞記事を読んだあとに、書いてあったことを実験として提示してみた。

すると、記事を読むことにはあまり興味を示さなかった児童も、引きつけられてきた。新聞記事を補う意味で、児童の実態にあった手だてが必要であろう。

また、授業の中での姿だけではない児童の変容もあった。

翌日の朝。記事を読む場面では興味を示さず「今日の授業はつまらなかった」と感想を書いたKY児が、「先生。昨日の新聞に廃油石鹸のことが出ていたよ。俺、スクラップにはることにしたんだ。いいでしょ、先生。」と、喜んで私に話した。この児童は、家に帰ってから普段は土曜日曜にしかあまり読んだことがない新聞を開いたそうである。そして、授業で学び、自分の体験と結びつけている廃油石鹸の記事を見つけたとき、うれしくなって切り抜いたようだ。

興味を持ったり、体験を通して学んでいることが新聞の活用にも大きく関わっていることが、単元や実証授業、授業後の児童の姿を通してわかってきた。

・単元のまとめとして制作した新聞→



4. 実践の感想と今後の課題

1年次終了時にまとめたアンケート結果によると、新聞を読む日数や時間は実践開始前よりも伸びている。また、読む記事のジャンルも広がりを見せている。これは、一応の成果が出たものと考えられる。

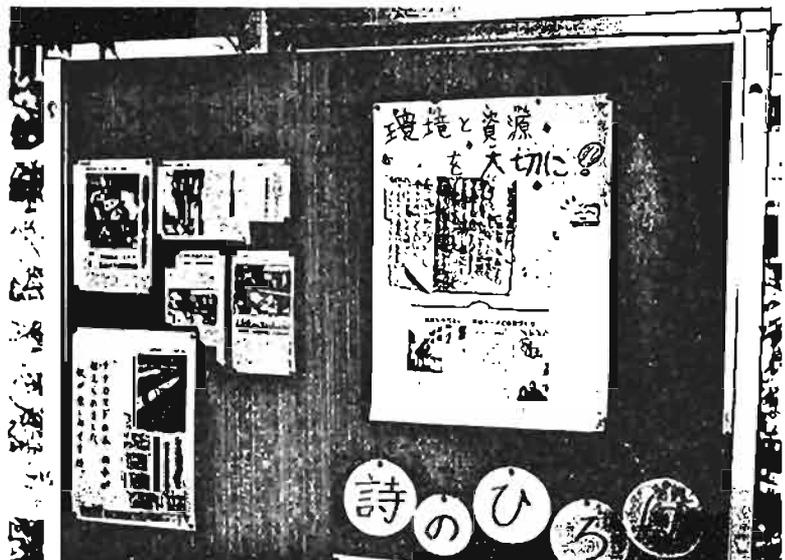
子ども達も、学習や実践を通してそれぞれのメディアのもつ特性に気づき、新聞のよさを見つけている。特に、地方紙に見られる地域の生活に密着した記事については関心が高まったと言える。スクラップブックでもその傾向が見える。

世界や日本の大きな動きはテレビで見るとというのが、現在の子どもの姿である。漢字への抵抗や、記事の難解な語句（子どもにとって）を読むこと、解説について意見が持てるまでの力がついていないので、このような結果となったと思う。テレビと新聞の併用を進めていくことで、新聞にも意識を持たせていきたい。

家庭学習としてスクラップ活動をすすめたために、親子で新聞を読むといった家庭もでてきた。中には、親子それぞれの感想を書き添えてくることもあった。実践当初は考えていなかった思わぬ効果であり、今後の活動としても大切にしていきたいと考える。

新聞は情報の量が多く、学習に取り入れるための間口は広い。つまり、取りつきやすい学習材となる。ただ、広いがゆえに焦点化をして学習に組み入れていくことは、教師側の教材研究の深さと即時性が求められる。子ども達の興味や関心をつかみながら、あるいは喚起しながら、効果的に学習に生かせるようにしていくことが今後の課題である。

また、新聞に親しむ環境づくりをより工夫して、新聞を目にすることが生活の一部となるようにと考えていきたい。



児童昇降口にあるNIEコーナー